	ベトナム海外イマージョン研修
1　報告者	矢野 文明主幹教諭、平石寛子教諭
2　日時	8 月 2 日（火）7：00～8 月 6 日（土）6：30
3　場所	ベトナム
4　参加者	2 年生　8 名
5　講師等	JICA 南部事務所職員 青年海外協力隊員 カイゼン吉田スクール職員及び学生 東急電鉄職員 東部国際大学職員及び学生
6　目的	○　JICA ベトナム事務所の訪問を通して、日本の国際的支援の役割を実感する。 ○　日本企業が JICA の支援を受けて進めている、ベトナムでの交通を中心とした「新しい街づくり」を見学し、日本の技術や運用方法がベトナムで活用されている実態を学ぶ。 ○　現地の学生とディスカッションや文化交流を行い、日本にどのようなイメージを抱いているのかを知り、どのようなビジネスパートナーとなりうるのかを考え、論理的思考力・コミュニケーション力・幅広い教養を育て、次世代ビジネスリーダーとしての素養を身につけさせる。 ○　帰国後、成果を同学年の生徒や後輩に発表することで学校全体の課題研究の質を向上させる。
7 活動の概要	ベトナムにおける日本の関わりやベトナムの歴史について学び、生徒は各自課題意識をもってテーマ（「スポーツ」「環境」「香り文化」「都市開発」「健康」）を設定しインタビューを行い、その成果を発表した。
8　内容	事前学習 ○『物語ベトナムの歴史』（中公新書）を読んでベトナムの歴史等について学習。 ○青年海外協力協会（JOCA）の講師による、青年海外協力隊員（JICA）の活動についての講演を聞く。 8 月 2 日（第 1 日目） ○サイゴンスカイデッキ ホーチミン市内の様子（緑や工事中が多い場所や日本が建設した橋、サイゴン川が大きく蛇行しながら市内を流れていることなど）を観察 ○トンニャットスタジアム訪問 スポーツをテーマにした生徒がインタビューを行うため、トンニャットスタジアムを訪問。現地の人しか行かず、警察のパトロールが少ない地区で、観光地とは違う雰囲気を体感。

8月2日（第2日目）

〇サイゴン川見学

　かつて観光地として賑わっていた観光船の発着所近くの公園から濁った川を見る。開発と同時に川水の汚染が進み、観光船もなくなり、周辺の公園内の木々も鉢植えで管理されている等、観光地でなくなった現状を興味深く生徒も関心をもった。

〇JICA 事務所訪問

　酒井所長、シニアアシスタントのベトナム人のバオ氏から日本語で、日本の ODA ベトナム支援の概要の講義をうけた。

　質問の時間には活発に質問した。特に地下鉄の建設に関する話は現地ならではの計画の進捗状況などを伺えて、特に研究テーマが「交通」である生徒にとっては有意義な時間となった。

〇青年海外協力隊活動視察（整形リハビリセンター）

青年海外協力隊員の小竹氏（理学療法士）の職場を見学。理学療法士としての青年海外協力隊の活動についての講義後、リハビリセンター、義足を作る作業所の見学。さらに義足をつけて歩く訓練中の人たちを紹介された。

〇ベンタイン市場・ドンコイ通り見学

観光客で賑わいをみせ、店の人の言い値をいかに値切るかが大切なベンタイン市場、落ち着いた雰囲気のお店の多いドンコイ通りを比較しながら見学

8月3日（第3日目）

〇カイゼン吉田スクール　訪問

日本で働きたい人のために、日本語・文化・会社のビジネスマナーなどについて教える専門学校の授業を見学。その後、本校生徒が各自の研究テーマの課題解決のため、学生のみなさんへインタビュー。

〇戦争証跡博物館

ベトナム戦争について学習。

〇日本人街（レタントン通り）見学。

8月4日（第4日目）

〇東急ビンズガーデンシティー

東京急行電鉄とベトナム社会主義共和国との合弁会社である「BECAMEX TOKYU CO.,LTD」（ベカメックス東急）により進められている都市開発の一端を見学

〇風シャトルバス

東急電鉄が運営する、運行時刻に正確で清潔なバスを体験

	○日本食レストラン 風シャトルバスを利用してガーデンシティ近郊のレストランに移動。「HIKARI」で寿司を食べた。店内は満員で、外国人より地元の人の方が多いようである。 ○東部国際大学での交流 大学生と互いの文化を紹介。 日本からは茶道・書道・浴衣の紹介、ベトナムは武道・ダンス・歌の紹介を行った。 大学の施設等見学。
9　成果	生徒は、事前にインターネット等で調べた内容と、現地で実際に見学、体験したことに多くの違いがあることに気づき、現地調査の重要性を実感していた。特に、交流したベトナムの学生は、英語での会話ができたが、街頭でのベトナムの一般の人々へのインタビューでは、日本語はもちろんのこと、英語も通じなかった。生徒にとって、ベトナムの人との交流は、探究意識の向上に大変、効果的であり、生徒の中には、ベトナムの人が想像する日本の姿の話を聞き、今の自分達の生活、行動を見直す必要があると感じた生徒も少なくなかった。 これらのことから、今後、イマージョン研修を充実させていくために、さらなる事前のベトナム理解学習等の準備が必要であると考える。 今回のイマージョン研修の後、参加生徒は、同学年および後輩である１学年生徒を前に各自の研修成果をまとめ、発表した。発表するにあたり、生徒達は現地で学んできたことを整理し、成果をいかに効果的に伝えるかと、表現方法の工夫を重ねていた。その結果、発表を聴いた 1,2 年生徒達が、ベトナムをはじめとする東南アジア社会の発展や環境の現状について、興味関心を高められる工夫に満ちた発表ないようであった。その手応えに参加生徒達は、自らのプレゼンテーション力の自信につながったといえる。 また、参加生徒は、成果をまとめ、発表へとつなげていく中で、課題設定、事前学習、調査方法等についての改善点を見出し、今後に生かそうと考えている。この点を同学年の生徒全体で共有し、学年全体でのシンガポール海外研修に生かしていくように指導を継続していきたい。